

# 楽々亭通信

発行：NPO法人没イチの会・京都



## 十一月の楽々亭を

### 開催いたしました

本願寺派布教使

安堂芳雅

たくさんのお陰さまの中にいた私

こんにちは。

今年を秋を楽しみむ間もなく、炬燵から出られなくなってしまうた安堂です。

#### ■Sさんのお弁当

先日、和歌山のご住職さんがくださったお寺の新聞に載っていたお話です。

自宅から遠い私立の中学校への進学が決まったSさんは、中学校近くに住むおばあさんの家から通うことになりました。

おばあさんとSさん、二人の暮らしが始まりました。



た。

中学校は給食がなかったので、お弁当を持っていかねければなりません。

中学一年生の男の子です、自分では作ることができず、毎日持っていくお弁当は一緒に暮らすおばあさんが作ってくれたそうです。

ですが、そのお弁当はおかずは煮物だけで、あとは白いご飯が詰まっているだけでした。

毎日、煮物と白ご飯のお弁当。

お弁当の時間になると、とうぜん友達のお弁当のおかずが気になります。

卵焼き、ウインナー、唐揚げ、ブロッコリー……と色とりどりのなご自分で

のお弁当を見ると茶色一色。

二週間もすると、友達に言われ始めました。

「お前の弁当、いつも同じやないか。なんか年寄り臭い弁当やなあ」

そのうち、「ババめし」というあだ名がつけられ、みんなから「ババめし」「ババめし」と言われるようになったそうです。

「おばあちゃん、明日は違うおかずを作って」と言おうと思つて学校から帰つても、「おかえり、いつも一緒の中身でごめん」と先に言われてしまうので、何も言えませんでした。

「ええよ、ええよ、おばあちゃん、気にせんととき」と言つたものの、毎日お弁当の時間になると、「ババめし」「ババめし」と笑われます。

ある日、今日はお弁当を忘れたふりをして、学校へ行こう。

おこずかいでパンを買えばいい、と思いつき、その日はお弁当を食卓の上に置いたまま、学校に行きました。

授業中、ふと窓の外を見ると、なんとおばあさんが大事そうにお弁当を抱えて、校門から入ってくるではありませんか。

次の休み時間、教室に来たおばあさんは、Sさんを見つけると、「お弁当、忘れてたから、持ってきた」と大きな声で言つたので

すると周りにいたクラスメートが、「おい、おまえのばあさんが、ババめし持ってきてくれたぞ。」と一斉に笑つてバカにしたそうです。

その時、Sさんは恥ずかしいやら、悔しいやら、いろんな感情がついに爆発してしまつたのです。

「お前がこんな弁当つくから、俺は毎日恥ずかしい思いをしてたんだ

ぞ、こんな弁当いらん、もう帰れ！」

というなり、おばあさんが差し出したお弁当を床にたたきつけました。

思わず口にした言葉に、自分自身がハツとしたSさん。

しかし、出た言葉はもう戻りません。

おばあさんは床に散らばつた煮物を丁寧に集め、持っていた手ぬぐいで床を拭き、「いまままで、本当にすまんかったね」と精一杯微笑んでいられました。

そのおばあさんの顔と、淋し気に帰つていった後ろ姿が、Sさんは何十年経つた今も忘れる事ができないそうです。

そして、「おばあちゃん、ごめん」の一言が言えないまま、その後、一年もたたないうちに、おばあさんは事故で亡くなつてしまいます。

「僕はあの時、なんてひどいことをしてしまったんだろう。」おばあさんの思いの深さにSさんが気付いたのは、随分後だったそうです。

Sさんの話を聞いていたら、私も祖母を思い出しました。

祖母は、冬になると足の小指をしもやけで赤黒く腫らす私の運動靴を、早朝から炬燵で温めておいてくれました。炬燵から出した運動靴はほかほかで、足を入れるとふわーっとぬくもりのぼってきました。

けれど、私も、「おばあちゃん、ありがとう」って一度も言ったことはありませんでした。

### ■「恩」

あらためて、漢字「恩」の意味を調べてみると、「めぐみ」「慈しみ」とありました。

「恩」は、因という漢字と心という漢字からできています。

それぞれについて、  
因は↓赤ん坊が座布団の上に大の字になって寝ているすが

た。

心は↓その赤ん坊が暑かったり、寒かったりしてないか。お腹がすいたり、オシメが濡れていないか。と大の字になって寝ている子のことを思って、さまざまにはたらいっている慈しみの心。だと、教えてくれた先生がおられます。

座布団で大の字になってすやすや寝ている赤子は、自分にか  
けられている多くの慈しみの心  
に、いつ気づくのでしょうか。

Sさんのお弁当にも、ほかほかの運動靴にも、あの子のためにといい慈しみの心がいっぱい  
に込められていました。

そのことに気づくことって本当に難しいですね。今まで陰になつて見えなかった私にはたらく様々な心に気づけて初めて、「おかげ（陰）さま」って言えるのかも知れません。

令和5年を振り返ると、たくさんの方のお陰（慈しみ）の中  
にありました。



ほんとうにありがとうございます。

### 楽々亭 12月の予定

12月11日（月）

西京区役所洛西支所第三会議室

午前10～12時



### 楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。